

隨想



カット／岡田 淳

●ボートビア・エスティナショナル
ジャズ・フェスティバルによせて

夏の世界的な イヴェント

野口 久光

（音楽評論家）



かつてはもっぱらダンス（ソシアル・ダンス）のための音楽だったジャズがコンサート・ステージで演奏され、音楽として鑑賞されるようになったのは一九四〇年代からのこと。その大がかりなコンサートを最初にジャズ・フェスティヴァルと称したのはアメリカ人ならぬフランス人だつた。しかし、それを夏の野外の催しにして成功させたのは（ニューポート・ジャズ・フェスティヴァル）をは

じめたジョージ・ウイーンである。天井が低く、あまり広くないジャズ・クラブ、むせるような煙草のけむりの中でナマのジャズを聞くのが「通」だともいわれているが、今や夏の屋外ジャズ・フェスティ

バルは世界的な流行になつてい。避暑地の海浜や湖畔で、昼間は日光浴をしながら、夜は星空のもとでジャズをきくのは實に健康的であり、今回の（ボートビア・インターナショナル・ジャズ・フェスティヴァル）は心地よい海からの微風を肌に感じながらジャズを心ゆくまでたのしめるという点で日本では嘗てない理想的なジャズ・フェスティヴァルとなるだろう。

ついさきごろ、ハリウッドの名所のひとつハリウッド・ボウルで二日間に亘つて開かれた第三回（プレイボーイ・ジャズ・フェスティヴァル）をきいてきたが、これが実にたのしい。有名な映画ス

タード通りを北に向つて十五分くらい歩いてゆるやかな坂を上つて行くと左側に入口がある。公園地帯の自然の凹地を使用した野外コンサート会場で、二万人の聴衆を収容できるマンモス・コンサート会場である。初夏から九月下旬まで、ほとんど毎日コンサートが開かれているが、会場が広いためにクラシックのコンサートでもスピーカーが使われているにも拘らず音はかなりいい。

ジャズ・フェスティヴァルともなれば、お客様はカジュアルな軽装で、料理や飲み物を詰めた大きなバスケットなどをかかえてピクニック気分でいる。午後二時半開演、夜の十時半すぎまで八時間余のあいだに十グループくらいが出演する。時間が長くてくたびれそうな気もするが、星の陽ざしがかなりきついがひんやりとする山側からの微風も快く、夜は涼しくて気持ちよく、不思議なくらいつかれない。P.A.もロック系のグループの出しすぎはあるが快調だった

さきごろ日本できいたばかりの（ウェザーリポート）がよかつたし、リツチー・コールもたのし

かつた。二日とも真打ちはカウント・ベイシー・オーケストラで、日本ではほとんどPAを使わない

このオーケストラだが、PAを通すとレコードに近い音になり、ナンバー・ワン・スイング・バンドの実力をみせる。足の故障で車椅子を使っているベイシー翁は相変わらず元気いっぱい、今年の秋の来日が延期になったことをメンバーワーとともに残念がっていた。

《ポートピア》の会場は屋根つきだが、客席の廻りが吹き抜けになつてるので野外と同じ気分できけるわけで、アメリカ遠征を果し、ロスでアメリカのミュージシャンで編成したオーケストラでのレコーディングをしてきたばかりの三木敏悟のインナー・ギャラクシー・オーケストラのこけらおとし出演に始まり、日本の第一線グループ、そして毎夜、スコット・ハミルトン、ペディ・テイト、アル・コーンの三大テナーマンを中心とするコンコード・オール・スター・バンドに日本側から松本英彦、北村英治、光井章夫がゲスト出演する。そのジャム・セッションがフェスティヴァルのハイライトとなることは疑いなく、東京でもきげないこのイーヴニング・セットは今からものしみである。

★ポートピア・インターナショナル・フェスティバル 8/3(月)~8/6(木) 国際広場

つまづき 転びながら

三村 照雄

（ポートピア映画フェスティバル
実行委員会）



「ようやくここまで来た！」

フェスティバルの開催を目前に控えて、今の私の正直な気持です。

神戸——明治29年の11月に、花

隈の神港俱楽部において、わが国

ではじめて映画が上映された、映

画ゆかりの地。その神戸で開かれ

る博覧会に、何かひとつくらい映

画に関係のあるイベントがあつてもいいんじゃないかな。こんな考え

が私の頭に浮かんだのは一昨年の11月のこと。それも同じやるなら、

企業や他の団体にお膳立てをしてもらうのではなく、我々市民の手

で、本当に映画が好きな人が集まつて、企画を立て、準備をすすめ

て行こう。早速、私の仲間「神戸

映画ファンクラブ」の会員たちに呼びかけたところ、「賛成！」「や

ろうやろう」の声のもと、この計

画は威勢よくスタートしたのです

根から映画好きな仲間たちの間で、ユニークな企画がボンボンとび出しました。まず、神戸市内

の全映画館（41館）に投票箱を設置し、入館者に、好きな映画、監督、俳優を投票してもらう。各部門別にベスト10を集計し、その結果をもとに、外国映画、日本映画それぞれ10本ずつを、ポートアイランドの国際交流会館・メインホールで上映する。「上映会には、上位に選ばれた監督や、男優、女優たちにも来てもらおう」、「松竹の寅さんシリーズのロケを、期間中、ポートピアの会場でやつてもうらうはどうだろうか」、「学生の自主制作映画を集めたコンクールもやりたいね」etc。

が、現実とは厳しいもの。最初にひつかつたのは、おかげの問題でした。話が大きくなればなるだけ、フェスティバルにかかる費用もかさんで来ます。企画を持ち込んだ時点で、「それは面白い。うちとしてもぜひ後援したい」といってくれた博覧会協会も、「おカネについてはノータッチ」と、すげない返事。「これは大変」と、資金の調達に走り回った結果、電通がスポンサーを集めてくれることに、話がまとまりました。ところが、ホツとひと息の間もなく、今度は、神戸の興行界の方から、「あまり派手にやられたら、地元の映画館の客をとられてしまう」と懸念の声。しかし、こちらの方も、神戸国際松竹の平木達雄支配

人の協力を得て、全面的なバックアップを得ることができました。

何ぶんにも、ド素人の始めたことで、最初の予算が大幅に削減され予定していたイベントがボツになつたり、など、事が思うように運ばないこともありました。今もプレイガイドの前を通るたびに、デカデカと貼られたポスターを前に、「チケット完売てるかなあ」と祈るような気持です。

つまずき転びながらも、ここまで来た「私たちのフェスティバル」ひとりでも多くの人に参加してもらえれば、と願っています。

新人賞を

岡田 淳

（児童文学・漫画家）

5月に、日本児童文学者協会から、新人賞をいただきました。

この3年間に、「ムンジャクンジユは毛虫じやない」「放課後の時間割」「ようこそ、おまけの時

日本児童文学者協会
新人賞受賞式にて

おなじでなく電話でうけたえしあと、待てよ、と思いました。2年め、2冊めの本で新人賞、おおすぎるのはわざがないのです。それなのに彼がそう言い、ぼくもなかばうなずきながら聞いてしまつたのは、理由のないことではないようです。

ぼくは、ずっとマンガを描いてきました。ずっと、といつても、最初のマンガ集『星泥棒』からだと15年、「神戸っ子」の連載なら13年ですから、たいした期間ではありません。しかし、児童向けの読みものに費した時間にくらべる

間に（いすれも偕成社）と、1年に1冊のペースで、児童向けの読みものを出してきて、去年の夏に初版が出た『放課後……』が、幸運にも受賞、ということになつたのです。

そのしさが新聞の片隅に載る「神戸っ子」編集部をはじめ、新聞の隅々まで目を通して習慣を持つらしい義理固い多くの友人から、お祝いの言葉をいただきました。

その中に、こういうのがありました。

——今さら新人賞、おそすぎますやんねえ。

それは、友人中でも義理固さ最右翼の磯本くんのことばです。いやあ、そんなこともないやろけど……。

なにげなく電話でうけたえしあと、待てよ、と思いました。2年め、2冊めの本で新人賞、おおすぎるのはわざがないのです。それなのに彼がそう言い、ぼくもなかばうなずきながら聞いてしまつたのは、理由のないことではないようです。

ある児童書関係のかたのことばによれば、ぼくは、ファンタジーの作家なのだそうですが、きっとそのファンタジーの発想法と、ぼくのマンガの発想法は、密接に重なっているのでしょうか。

そういう意味では、ぼくはマンガを描くことで、ずっと児童書のための何かを、たくわえてきたのかもしれません。これからも、ぼくは両方続けていくだらうと思ひます。いつか、両者の重なるあたりで、新しい仕事ができそつなん……、予感もないかもしれません。

と、ずっと、ながいわけです。
おそらく、磯本くんが「おそらく」と言つたのは、マンガのほうの仕事も含めた期間を想定したことだったのでしょう。また、ぼくもそういう感じで、彼のことばを聞いていたのだと思います。

そう考えてみると、「おそらく」というのは、まちがいではあるにせよ、ひとつ真実を言っているようです。

もちろん、作品のモチーフだから、発表の状況だとか、かなりちがつたところはあります。基本的に部分で、同じような創りかたをしているな、と思ひます。

ファッションに
“贅”を尽くすのは素敵。
でも、
いつも美しく着ている
人はもっと素敵。



技術に贅を尽くしファッションを
常に美しく——ニシジマ

- 型くずれの防止
- 素材感の回復
- カルテの作成
- お客様のお好みに合せた仕上
- ファッションクリーニングの最新情報の提供



神戸市中央区三宮町2丁目10番7号
グレイス神戸B1 (078) 332-2440

新発売!
こうべサブレ

エトランゼたちに 愛されてきた
美しい港町 神戸
潮風に 髪をなびかせて
歩いた坂道
ふと出会った……
チーズサブレ——忘却がたい
。 そのデリケートな歯ざわり
異人館のある街 神戸



¥500・¥1000

北欧の銘菓
ユーハイム・コンフェクト

工場・販売店 神戸市中央区船内町1-8 (南蚕美崎駅東側) TEL 221-1164

丸一、そごう、阪急、神戸アパート、元町店

K.S.S.C. △神戸スケールシップクラブ▽

近藤輝男

△神戸スケールシップクラブ事務局▽



半年がかりで作った大作。
(5月の例会、六甲まむし池で)

船の好きな方は、相当多いと思
います。模型の世界においても、
帆船の好きな方、客船の好きな方
ヨットの好きな方と、千差万別で
す。そして、作ってスケール感を
楽しむ方、動かして楽しむ方の二
つのタイプに別れます。我々のク
ラブの基準は、必ず实物のスケー
ル感を備えてなければならないこ
とと、実際にラジオコントロール
で、走航しなければならないとい
うことです。タグボートあり、客
船、貨物船、漁船外輪船、ヨット、
クルーザーなど、はては潜水艦ま
であります。パワー・プラントは、電
気エンジンと色々あります。特
に多いのは、電動式とスチームエ
ンジンを使用したもので。これ
には理由があります。それはこ
騒音の問題があります。それとこ
の二つの動力が、スケールモデル
に一番ふさわしいからです。

現在会員数は25名、その大半は
40代以上の方です。職業はいろい
ろで、サラリーマンあり、運送屋
あり、水商売ありとバラエティに
とんでいます。皆、仕事の合間に
休日を楽しんでいます。当クラブ
の例会は、月一回で神戸市内の
池を利用して走航を楽しんでおり
ます。のんびり椅子にすわつて、

タバコを吸いながら、自分が苦勞
して作った船が目の前を波をかき
わけ、煙をはきながら走航して行
くのを見ると、ある会員は「まる
で自分の子供のようにかわいい」
といいます。木を削り、穴を開け
表面を磨き、色を塗る。ひとつひ
とつの工程を工夫し、考えながら
製作期間は、早い人で三ヶ月、半
年から一年ぐらいかかるモデルも
ざらにあります。最近は、市販キ
ットも多くなってきて、たいてい
の方が、まずキットの製作より始
まり何隻か作ったのち、自作のも
のやキットの改造に入していく。
値段も数千円のものから、三十万
円ぐらいの高価なものまで色々あ
ります。特に、好んで良く作られ
るのが、古いタイプのタグボート
や漁船なのです。これは、年令層

にもよるでしょうが、やはりノス
タルジアな感覚が、モデルに求め
られるからだと思います。

何もかもがインスタント時代に
なった現在、特に最近の子供達は
工作と言えば、プラモデルを買つ
て、接着して“ハイ出来上り”。
これれば、自分で満足に修理が
出来ない。大きくなつて、クギ一
本満足に打てるのだろうか?心配
になつて来る。今の大人達、特に
戦中派以前の年代の人々が、子供の
頃には、こういつた模型も満足に
手に入らなかつたとよく聞かされ
る。子供の頃、チームエンジン
を買いに行つたら、当時のサラリ
ーマンの月給ぐらゐの値段が付い
ていた、とある人はいう。そんな
子供の頃の夢を、今現実に、楽し
んでいるのである。最近、当クラ
ブも、序々に、若い人も増え、老
若和氣藹々である。月一回、弁当
飲料を持って、会場の池へやつて
来る。今日は新作の進水式をや
るよ。シャンパン持つて来たよ」
今日も、天気は晴天。青空の下で
船談議に花が咲く。「今日一日樂
しむぞ……」そんな楽しい楽しい
クラブなのです。

もし、この本を読んでいる方で
「オレもやつてみよう」と思われ
る方は、「神戸スケールシップク
ラブ事務局」(株星電社内)まで、
お問合せ下さい。今年はボートビ
ア'81。神戸で生まれ育つた船キ
チが、今後とも末永く仲良く出来
る仲間であります。

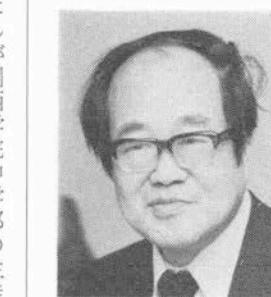
『夕暮れに苺を植えて』を

書き終えて

足立卷一
作家▽

このたび公刊した『夕暮れに苺を植えて』の前半は、『神戸つ子』編集長小泉康夫氏が発行していた月刊雑誌『オール関西』に津高和一氏の挿絵で連載した。その第一回は昭和四十八年十月号であつたから、連載をはじめてから足かけ九年で、やつと一冊の本になつたことになる。その間、いろんな曲折があつた。『オール関西』が五十年六月で休刊となつたため、中絶した。すると、歌誌『六甲』を発行していられる山本武雄氏が見かねてのことであろうが宮崎修二朗氏を介して同誌に続稿を連載する機会を与えてくださつた。そして五十四年九月に一応連載を終え、あとは補筆に時間を費した。怠け者のうえに雑事の多いわたしにとって、そうした神戸の人たちの厚意がなかつたら、とても書き上げられなかつただろうと思う。まず、そのことにお礼を申しあげねばならない。

先生の伝記を草するのには、家族だけでなく、先生にかかわりのあつた多くの人たちのことを調べなければならなかつた。それがなかなか厄介であった。それに、先生の暗部や弱点にも触れねばならなかつた。きれいごとでは実伝とならない。



そのためには少なからぬ心の痛みをおぼえた。墓あはきではないかとも自責された。それで書き悩んだことも一再ではないが、そのときはいつも先生の温顔を脳裡に思い浮かべた。お前の気のすむように書けばいいよ、というお声がもれる思いで、何を書いても先生は許してくださるような気がした。もちろん、身勝手にすぎないであろう。でも、そうでも思わなければ筆は進まなかつたのである書き終えて、わたしは先生にお許しを乞うた。

そうしてやっと本になると、いろんなかたがたから手紙をいただいたが、もつと早く聞いておけば本文に書きこむのだったのにと思うことも少なかつた。先生は宮城県の築館中学校を卒業されたのだがそのとき池内儀八という中学教師の家に寄宿せられ、儀八の長男龍男さんと同級生になり、兄弟のようにいっしょに暮らしたという。その龍男さんはいまお達者で、便箋十枚に細字でびっしり書きこんだ手紙をくださった。その文面がすべて石川先生の思い出だつた。

作文で「山」という課題を出され、みんないろいろな実在の山を書いたのに、先生ひとり「『山いくら』という山もある」と書き、講評でこっぴどく叱られたという。いうのも、築館中学校にはいる前、先生は東京の叔父の店にあずけられ、ミカンを一山いくらで売っていたかららしい。この挿話も先生の生い立ちを語っているように思う。

また、ダラ池という氷の張る池があり、石川少年は遊んでいるうちに氷が破れて大騒ぎしたことがあり、その模様が生き生きと書かれていた。これも書き入れたい話であつた。

箕面自由学園校長の矢内正一先生は、関学中学

部の先生をしていらされたとき、石川先生と隣り同士に住んでいた。それだけに交際も深かつた。矢内先生は石川先生の思い出をこまごまと書かれのち、「病気になられて老いたお母さんがあり、まだ若い妻があり、幼い一人息子のあつた先生がどんなに苦惱されたか、その心事を思うと、『さぞつらかっただろうな』としみじみ思わないではいられません」と述べられた。さらに、はじめにきた女の子が幼没したとき、石川先生の母堂は骨壺に手を差し入れて骨を愛撫され、石川先生は堪えられなかつたと矢内先生に語られたそうであるこの話も痛ましい。

畏敬する松田道雄先生からお祝いの手紙をいただいたことも実際にうれしかつた。「一生に一冊しかかけないでしよう」と言つてくださつた。

「……石川先生の生きた時代が実によくうつされています。私はこのごろ昭和のはじめに、『はやつた』マルクス主義は、その後真実性を失つたかもしれないが、あれにひかれた人間のほうにあつた心情は眞実だと、お題目のように考へています。まことに人間がそれにまきこまれないでいた時代の流れを、あなたは発掘してくださいました。恐らくご本は教師と生徒との人間的つながりの美しかった時代のあかしとしてこれから人の口にのぼると思いますが、私はむしろ大正・昭和の精神史として、かかるべくしてかかるなかつたものの誕生として祝いたいと思います」

過分のおことばとは重々承知しながらも、わたしが伝記をつうじて書きたかったのもそういうことだったので、まことにありがたかつた。

トランペッタ手にブラジル一人歩き(6)

— 38 —



「神のみぞ知る」(ロバート・ミッチャム 主演)で トリニダッド、トバゴ島へ 口ケの旅

右近雅夫(在ブラジル・サンパウロ/絵も)

在伯二年目を迎えたある日、二十世紀フォックス社からロケに出演する日本人のエキストラを募集に来ていることを聞いて、早速応募して見ることにした。

映画は、ロバート・ミッチャムとデボラ・カーラ主演の「神のみぞ知る」という題名で、第二次大戦中の南太平洋の孤島が舞台であった。エキストラには、日本の兵隊の役をする元軍人を求めていたのだが、偶然シナリオにラップを吹く場面があったので、幸運にも僕は採用OKとなつた。そして数日後、テストをパスした五人の元軍人さんと共にロケの目的地、中米カリブ海に浮ぶトリニダッド、トバゴ島に向かって出発した。

連邦に属しており、我々が訪れた一九五六年頃にはまだ日本の領事館すらなく、恐らく島民にとても戦後初めて島を訪れた日本人だったのである。トランペットのケースを下げて、強烈な朝日に輝やくポート・オブ・スペインの空港に降り立つと、島の新聞記者達にインタビューされ面喰ってしまった。ここからローカル線の小さな飛行

我々が島に着いた時は、まだ主役二人だけの場面の撮影が始まつたばかりで、僕等は海水浴をしたり、ホテルでぶらぶらして毎日を過すことになつた。もちろん遊んでいても高給がもらえたのでそれにこしたことはないが、二、三日もすると手持不沙汰になつてきいた僕は、朝早くからホテルの主人のルックさんが市場へ車で買い出しに行くのを手伝つたり、料理の上手なミセス・ルックにケイの作り方を教わつたりして暇をつぶした。

週末になると、僕等の担当のミスター・ハロルドが、土曜の晩、スタッフの泊っているホテルでダンス・パーティをやるので、僕にトランペットを吹いてくれと頼みにきた。ロケ班の即席バンドはカメラマンがピアノをやり、自作のベニヤ板でこしらえたコントラバスを弾く大工方、それにギターとドラムがあつたが、管楽器が一本加わると

ちよつと恰好良くなつた。パーティにはJ・ヒューストン監督やデボラ・カーも現れ、大いに賑つたが、お蔭でエキストラの仕事が終つてからも、僕は土曜のパーティのためにロケの終るまで三ヶ月間、島に残されることとなつた。

ところで、島には小さなアイスクリーム屋が一軒あり、メイリンという中国系の可愛い娘がいたが、僕等は良くその店へアイスクリームを食べに行つた。さてロケもいよいよ終末に近づき、日本軍が島を爆撃して上陸作戦を展開するシーンの撮影に入つた時、その他大勢の日本兵に扮するため島在住の中国人がエキストラとして動員された。ところが、その日のためにわざわざハリウッドから派遣されて来た爆薬の専門家が、過まつて予告なしに一斉に爆発を始めたのでロケの場は右往左往の大混乱になつてしまつた。騒動が一応治まつた頃、何だか臭い匂いがして來たので、横手を見ると、椰子の木蔭で日本軍の軍服を着たメイ



ロケでトバゴ島を訪れたデボラ・カー（1956年、筆者撮影）

リーンの父親のアイスクリーム屋のオッサンが、爆発の際ズボンの中にもらした大便を仲間にトイレットペーパーで拭つてもらつていた。それ以来、僕は彼の店にアイスクリームを食べに行く気がしなくなつた。

トバゴ島の住民の大半は黒人だが、僕等が島へやつて来た当初は、日本人に反感を持つていたのか、我々は「オウ、ジャップ！」といつてよく罵られたものだ。そのことをホテルの主人のルックさんに話すと、彼等は第二次大戦の時、アメリカの軍艦に水兵として乗り組み日本と戦つたので、いまだに敵愾心を抱いているのだろうと答えた。やがて十二月になると島の公会堂で慈善ショウが催され、我々ロケ班のバンドも特別出演することになった。その当時島で流行していた「ジーン・アンド・ダイナ」というカリブソングを僕等が演奏し出すと、島民達は熱狂し、一緒に歌い出し、何度もアンコールさせられた。

翌朝、ホテルの近くのヴィラを一人で散歩してると、以前僕等を「ジャップ」と呼んだ黒人達がやって来て「Mr. C. KONG」と呼ぶので、何事かと思つて立ち止ると、昨日のショウのカリブソングがたいへん気に入つたらしく「今まで日本人といえば好戦的で野蛮な人種と誤解していいたが許してくれ」というなりお互いで肩を抱き合い、かたい握手を交した。

やがてロケも終り、トバゴ島を飛び立つ日になると、ルックさん一家をはじめ、緑の滑走路には大勢の島民がおしあげ、お互いで別れを惜しんだ。

日本とスパゲティ

さて、スパゲティが私達日本に普及したのは、戦後であります。アメリカの駐留軍がもちこんで参りました。彼等は何百もの調理をまかなうため、大量のスパゲティをいっときにゆで、サラダオイルをまぶして冷蔵庫に保管しておき、必要に応じてケチャップをまぶして油炒めしたり、皆様よくご存知のミートソース等のソースをぶっかけて食べておりました。その調理方法が、私達の間にひろまり、あたかもスパゲティとは、そういう調理方法しかないんだという、とんでもない誤解を招いたまま現在に至っております。

きっとほとんどの方がナポリタンとかイタリアンとか称して、スパゲティを調理してらっしゃいませんか？

ある日本人がナポリに観光に行って、レストランで、「ナポリタン」とオーダーして恥をかいたそうです。ナポリタンとかイタリアンとかいう命名は、日本の業者が本場イタリアに何の相談もせず勝手につけたものですから、念のため！

東京・渋谷 スパゲティ専門店



壁の穴

〈三宮店〉

中央区三宮町1-5サンロイヤル神戸10F(さんプラザ)

TEL 078-332-4551

営業時間11AM~9PM 第1・3月曜休

※いよいよ7月2日京都店がオープンいたしました。四条河原町高島屋7F。京都におこしのせつは是非お立ち寄り下さい。

旧兵庫県庁舎とその保存

足立 裕司

（神戸大学工学部建築学科助手（建築史専攻））

旧兵庫県庁舎（兵庫県南庁舎）

は明治三十五年に竣工した兵庫県における代表的洋風建築である。

今、この敷地に南庁舎の取り壊し移転を前提としなければならないようなオペラ・ハウス、生活文化ホールの計画が進められていると聞き、唖然としてしまった。なぜなら、取り壊しは言語道断のこととして、移転するにしても、八年間も県民に親しまれてきた建物をその土地から切り離し、別の土地に置くことなど、ほとんど破壊することと同様であると思われたからである。もし、この場所から南庁舎が姿を消せば、どれだけ県周辺の風景が寂しくなるか想像していただきたい。

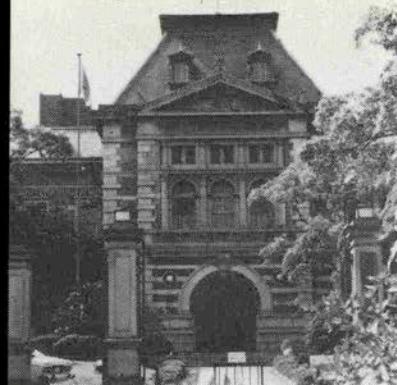
堂々とした風格の兵庫県南庁舎

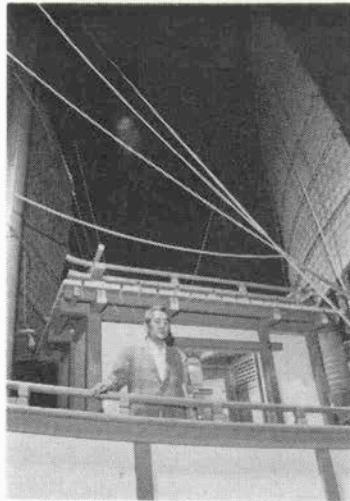
態度と軌を一にしているように思われてならない。確かに建築は実用という基盤の上に成立するものであるが、その価値は他芸術に優りるという考えは、建物の存在価値を矮小化した安直な文化行政といわれても仕方がないであろうもちろん、この建物自体の歴史

この建物にかぎらず、歴史的な建築物はその場所に固有の趣きや落ちつきを与えるという環境形成上の重要な働きがあり、又、長くその場所にあることによって、さまざまな出来事や出会いの場、背景として人々の心の風景を構成する大切な要素なのである。特に、石やレンガ造の建物は年とともに味わいを増し、心をこめて維持していくなら非常に長い生命をもつものである。日本にはヨーロッパのように建物を愛し、長く活用していくこうという姿勢がないことは残念なことである。このことは、絵や彫刻には理解をしめしながら建築や都市景観には、まったく無関心な日本の知識人、経済人等の都市に発つたルネサンス様式が十六、十七世紀を通じてフランスで展開をとげた形式をこの建物は汲んでおり、過剰な装飾効果を廃し、実用を重視した、比例、調和のとれた建築である。その特色ともいうべき丸く、やわらかいファサードのドームは戦災で失われたものの、軀体の壁面は良く保存され、今後、十分使用に耐えることができるものである。

作者の山口半六は松江藩の出身で青年時代フランスに学び、幅広い能力を身につけた建築家である。しかし、建築家としてはこれからという四十二才で逝去したため、作品の数は少なく、この庁舎は彼が亡くなる直前に設計した代表作である。彼はこの建物の完成を見ることなく世を去つたため、死後、秋吉金徳の監督によって完成されている。

このように、建築学上もしくは都市環境上重要であるばかりか、県政の象徴ともいいくべきこの建物を県当局自身が無視することはできないはずである。本建築は異なる地域文化を有する兵庫県民の生活文化の資料保存と展示を兼ねた郷土館などとして、この場所において永く活用していくことがもっとも妥当な方向ではないだろうか。



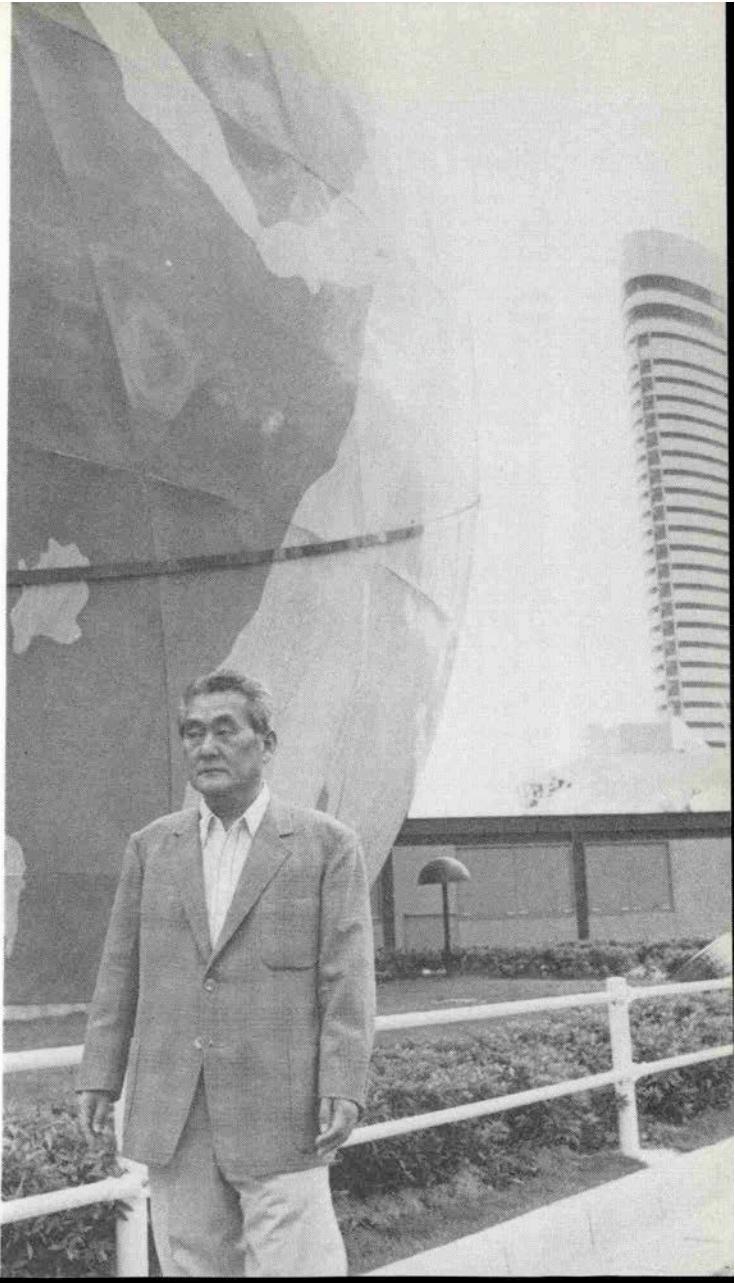


文化を運んできた遣唐使船。歴史の謹が
ここにある。IBM館

邦光史郎

（作家）

ポート・ピア見聞録



神戸は、夢をつくるのが上手な都市である。

夜景、etc。

そうでなくとも、帶のように細長い市街の、北には山垣が、南には海を控えて、ふたつの特性をうまくミックスしたユニークな港湾都市として知られている。

神戸は、土地そのものが狭いという自からの宿命をはね返そうとして、昔から人工島づくりに励んできた。

それも平清盛が、和田岬に経が島を築いて、吹きつけ

る風と波を防ごうとした、その平安末期から、すでに人工島構想を展開していたのだから、年期が入っている。

兵庫開港をした幕末の頃にもやはり埋立地をつくつてゐるが、以来百年間、山を崩してはせつせと土地づくりに精を出した。

それは山地を拓いて町をつくり、その土で海を埋めて市域をひろげるという、正に一石二鳥の構想によるもので、昭和四十一年から着手して、昭和五十六年に完成したのがポートアイランドである。

二十一世紀の新しい海の文化都市を目指すこのポートアイランドは、東西三キロ、南北二キロ、周囲十四キロあるという。これだけの敷地に、埠頭や港湾やマンショ

ンや学校、病院をつくるぐらいのことはどこの都市でもやるだろうが、夢づくりのうまい神戸市は、そこにポートピアという博覧会場、夢の祭典をつくり上げた。

二



兵庫なうコーナーには各地を代表する美人が花を添える。思わず顔がほころぶひととき。兵庫県館

万博会場の三分の一とも、人によつては四分の一の規模ともいつているが、万博はあまりにもダダつびすぎた。その点、ポートピアは全体がコンパクトで、機能的にできている。

正面玄関ともいふべき中央ゲート附近は、なかなか堂々とした構えで、博覧会期だけでは勿体ないくらいだ。この会場で、何よりも真っ先に目につくのが、神戸ポートピアホテルである。まるで超豪華客船の煙突のような形をしているが、ポートピア全体を船と見立てるところ、立つ煙突は、一つのシンボルになりうる。

もともとが人工島なので、市内から橋を渡つて渡かれて行く感じが、いかにも海上都市の誘導路といった趣きで、明るい気分してくれる。

たまたま筆者が訪れた時は、いつもの半分くらいの入場者数とかで、どのパビリオンも、そんなに待たずに入れた。

ガイドマップを片手に、さてどこから廻ろうかと額を集め相談している家族づれもあれば、上映時間のスケジュールをしらべ上げて、AからBへと効率的に廻る一组もある、さまざまである。

中央ゲートを入った取つつきにあるのがテーマ館で、造形作家の作品展示がたのしい。天皇陛下も刷り立ての版画をもらってにっこりされたそうだが、海の文化都市のビジョンが所狭しとちりばめられている。

第二会場ともいふべきハイオービス劇場では、観客も画面に参加でき、舞台中央に並べられた二十六インチのブラウン管六十四個に一組づつの観客が写つてゐる。映像を主体としたパビリオンは他にも多く、このあた

“微速前進”と場内にひびくと、座席が、左に右にと揺らぎはじめる。

海面すれすれから水中に潜ると、例によつて魚の大群や鮫に出会うことになる。

そして海底火山の爆発を、いかにくぐり抜けて水上に戻ってくるかという、十五分間の海底の旅は、涼味にみちていた。

映像の中では、ダイエーの体験劇場が、圧巻である。直径二十三メートルというドーム状のスクリーンが、そのまま発射台になつていて、観客は自分たちが宇宙へ飛び出して行くのかと錯覚するくらい迫真力にみちている。

とにかく超特大のスクリーンで、映写機の方も超大型なら、フィルムも巨大で、帶のようなフィルムがぐるぐると廻つてゐる映写室のありさまを、ガラス窓越しに見ることがができる。

宇宙から地上へ、さらに海中へ、そして白銀の世界へと、息つく暇もなく映像が飛躍する。

それは、見る者を宇宙へつかみ取つて、これでもかこれでもかと、見せつける感じで、いささか疲れる。しかし迫力は抜群であった。

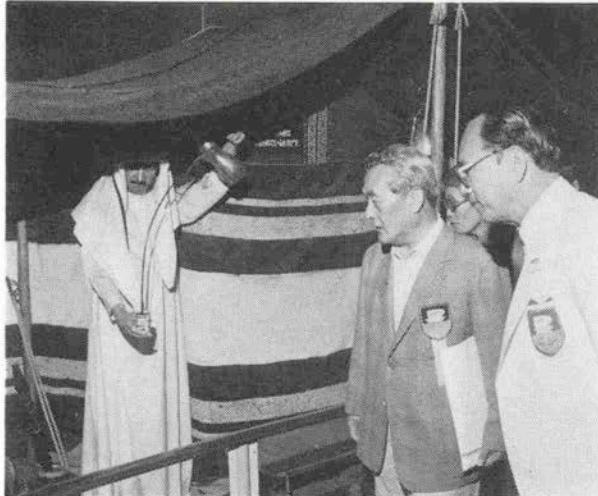
三

博覧会場は、パビリオン見物ばかりでなく出会いの場である。

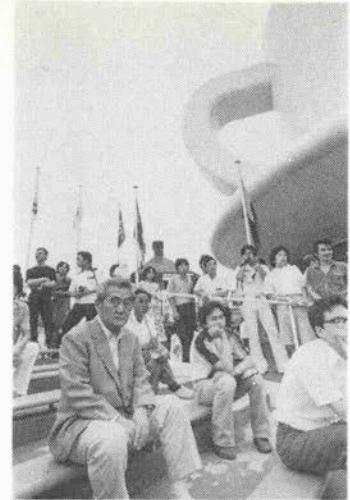
各種の催しが行なわれる会場もあつたが、小じんまりした野外ステージをもつてゐるUCCコーヒーの屋外イベント広場が、多くの人を集めていた。

素人だといふUCCガールズのタレントそこのけのダインミックな歌と踊りに観客は惜しみなく拍手していた。

UCCコーヒー館は、コーヒーの歴史と、日本とのつながりを、美術品や、歴史的な器具、あるいは人形、そ



コーヒー史通になれるUCCコーヒー館にて

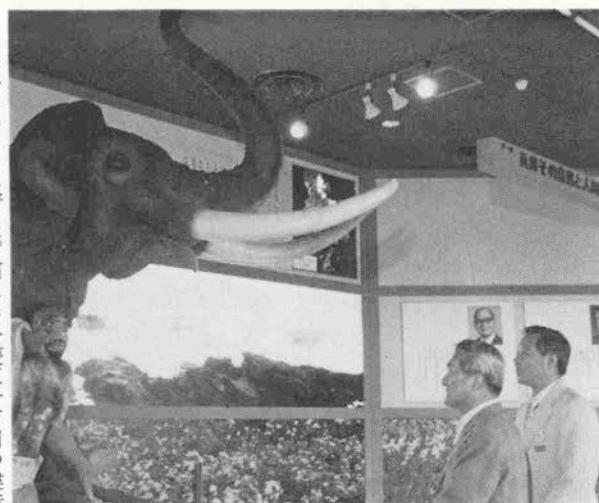


屋外ステージはヤングでいっぱい

の他を巧く組み入れて、ぐるりと一まわりしているうちには、一かどの“コーヒーハー史”通になれるような仕組みになっている。コーヒーカップを模したパビリオンの造形も、子供たちに親しまれているという。遠くからでもすぐ分つて、迷わずにたどり着ける所が妙である。

サントリーのウォーターランドも、水をテーマに、さまざま工夫をこらしている。

水とは直接あまり縁のなさそうなIBMが出展しているのは、“遣唐使船”で、史料にもとづいて、实物そつ



ナウマン像と明石原人…兵庫県館にて

と乗組員との居室はどこにあったのか、その辺のことは分らなかつたが、堂々たる遣唐使船の威容であった。遣唐使の歴史的説明や当時の船の解説、航海の記録なども展示されていて、なかなか充実している。

日本IBMは、現代の遣唐使でありたいというので、申込みがすでにいくつもきているそうだ。

この船をつくったそうで、展示後は、是非当方へといっているのもたのしいものである。

かつて万博のプロデューサーで、今またポートピアを手がけた人の話によると、この十年間で、日本人はすっかり行儀がよくなつて事故が一件も起つていないという。それに服装が見違えるほどすっきりしてきた分だけ紳士淑女がふえたようで、パビリオン前の行列も実際に整然としていて割り込む不心得者もなく、実に大人しいそうだ。それだけ成熟社会に入り、日本人の生活と意識が向上したのだろう。十年前は全盛だった八ミリが影をひそめて、今では、まだ肩に重いだろうに、ビデオが全盛だということである。

十年一昔、万博は重々しかつたが、ポートピアは、威圧感よりは親愛感があふれていて、神戸らしくモダンでスマートで、すこし軽いが明るいものに仕上つている。

主催地に敬意を表して、兵庫県館をのぞいてみると、兵庫県の歴史が一通り分つて、こまかい統計などもよくそろつっていた。出口近くにふるさと茶屋とか、‘兵庫なう’といったコーナーがあつて、特徴は兵庫県各地の民芸品の出張販売をしていることだらう。

県下二十市七十町が交替に“おくにぶり”を披露するそうで、未來の先取りの多いパビリオン幻想から、やつと地上に、それも郷土にたどり着いた気分だつた。

それは、いわば今様浦島太郎の旅のようなもので、いろいろ夢をみさせてもらつたけれど、帰りつくのは、やはり故郷音頭というのが、いかにも日本ので、安心感を与えてくれる。

動きはしないから、当時の航海を体験はできないが、地上十三メートルもある帆柱には、網代でつくつた帆が下がられている。百二十人から百四十人の大使の一行為くりの船をつくり上げた。何しろ一隻五千万円の建造費というから、大物である。全長二十メートーの遣唐使船が、館内を圧するように据えつけられ、観客は、その雄姿を仰ぎ見るだけでなく、船内へ入つて、当時使用しただらう要具を眼にすることができる。

動きはしないから、当時の航海を体験はできないが、地上十三メートルもある帆柱には、網代でつくつた帆が下がられている。百二十人から百四十人の大使の一